

性、学校や地域の実態を的確にとらえ  
るとともに、家庭や地域社会との連携  
を図りながら指導の徹底を図ることが  
きわめて重要である。学校だけでは、  
十分な指導の成果を上げることがむず  
かしく、家庭や地域社会の理解や協力  
を得ることによって一層徹底されるこ  
とを心がけておく必要がある。

各教科や特別活動等の日々の指導の  
中で、どのように道徳実践の指導を  
行うかについては、全体計画や年間指  
導計画に明確に位置づけて、学校の全  
教師のもとに指導が行われるようにす  
る。道徳性に支えられた行為を身に付  
けようとする道徳実践の指導は、一  
般に次のア～ウによることが多い。

#### ア 指示的、強制的指導

#### イ 模倣による指導

ウ 自発的、主体的学習を促す指導  
日々の生活目標の指導などはアを中  
心として次第にウの要素を増していく  
ことよって、効果を上げることが多  
い。道徳の時間の指導は、主としてウ  
によるのであるが、教師の人柄や身な  
り等から学ぶという場合は主として、  
イによるものといえる。

### 3 道徳実践力を培う指導

道徳の時間の指導は、児童生徒が道  
徳的価値を自己の自覚として主体的に  
とらえ、内面的に深めることにより、  
望ましい行為ができるようになるため  
の内的資質を培うことをねらいとし

て行われる。この内的資質が道徳的  
実践力といわれるものであり、道徳的  
実践力は、道徳的判断力と道徳的  
道徳的態度及び実践意欲の三様相を包  
括するものである。

この道徳実践力を培うためには、  
次のことがらに配慮して指導を進める  
ことが大切である。

ア 道徳的教育の全体計画における道  
徳の時間の位置づけを明確にする。

道徳の時間は「各教科及び特別活  
動における道徳教育と密接な関係を  
保ちながら、計画的、発展的な指導  
を通してこれを補充、深化、統合」  
しようとするものである。

したがって、全体計画はその趣旨  
の達成を図るための基盤となるもの  
であり、道徳の時間の指導計画を作  
成するうえで大きなよりどころとな  
るように関連づける。

イ 主題のねらいを明確にする。

主題のねらいを設定するに当たつ  
ては、その主題を指導する場合、主  
として、道徳的判断力を高める面に  
重点を置くか、道徳的心情を豊かに  
する面に、あるいは道徳的態度及び  
実践意欲の向上を図る面に重点を置  
くかなどを明らかにしておく。道徳  
性の三様相は、実際の指導では常に  
一体となり相互に関連し合っていて  
それらを分けて考えることは困難で  
あろうといわれるが、しかしそれぞ  
れの主題において追求される主な道  
徳性の様相を明確にしておくことは、

資料の選択や指導過程の構成上有効  
であり、ねらいの達成を図るうえで  
重要なことといえる。

ウ 適切な指導過程の組織化を図る。

道徳の時間の指導過程とは、道徳  
的価値についての主体的な自覚を深  
めさせるための指導の手順を示した  
ものである。児童生徒や学級・学校  
地域の実態に応じて指導のねらいが  
達成されるように、指導過程の各段  
階における発問や資料等の吟味、検  
討を行い指導方法についての工夫・  
改善に努める。

エ 道徳性についての評価を適切に行  
い、児童生徒の実態の把握に努める。

学習指導要領に示されているよう  
に、常に児童生徒の道徳性の実態を  
把握するように努めることが大切で  
あるが、各教科における評定と同様  
の評定を行うことのないように注意  
しなければならぬ。道徳性の評価  
の観点として、三様相に分けて評価  
することもあるが、評価の資料は総  
合的に解釈することにし、短時間や  
短期間での変容の評価には十分留意  
し、常に広い視野に立って長い眼で  
見つけて行くようにする。

### 4 家庭及び地域社会との連携

今日、児童生徒のしつけや基本的生  
活習慣が十分身につけているとはいえ  
ず、学校のみならず、社会の大きな問  
題となっている。家庭や地域社会では、  
それらを身につけさせようという願い

はあっても、教育活動を組織すること  
はむずかしく、学校教育に対する期待  
や要望が大きい現状である。

そこで、学校においては、家庭や地  
域社会に積極的に働きかけることによ  
って、それぞれの機能や役割のとりな  
おしや向上に努めていくことが大切で  
ある。

学校の教育目標や道徳教育の目標の  
趣旨等を家庭や地域社会に理解して  
もらうことや、家庭や地域社会の学校へ  
の要望等について、児童生徒の道徳性  
の育成を図るうえで相互に密接な連携  
を図るよう努めていくような配慮が  
必要である。

#### 五 特別活動の充実

#### 1 特別活動実践上の課題

(1) 特別活動のための指導体制を確立  
する

特別活動の特質を生かし、充実を図  
るためには、学校の組織体としての協  
力的な指導体制を確立しなければなら  
ない。

① 指導組織の改善を図る

効果的に機能する組織に改善するに  
は、次の点に留意する必要がある。

- ア 実践に基づく改善であること
- イ 全職員の評価に基づくこと
- ウ 全職員の意見が反映されること
- エ 役割分担を明確にすること
- オ 適切な人的配置であること